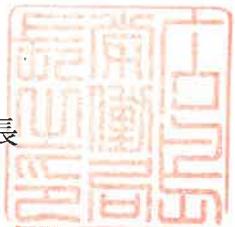


広労発基 0628 第1号
令和3年6月28日

公益社団法人広島県バス協会 会長 殿

広島労働局長



休業4日以上の死傷者数の大幅な増加を踏まえた
今後の労働災害防止対策の徹底について（要請）

日頃より労働行政の推進に格段の御理解・御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和3年の労働災害については、5月末速報時点で、死亡者数は交通事故による2人と過去最少水準で推移しているところですが、休業4日以上の死傷者数は、新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）による92人を除いても1,023人と、前年同期比13%増と急増し、過去5年で最多となっています。このような状況を踏まえ、下記のとおり現下の労働災害発生状況と労働災害防止のために事業場において徹底していただきたい事項をまとめましたので、傘下団体・企業に対して周知をお願いいたします。

記

1. 現下の労働災害発生状況（休業4日以上の死傷災害、5月末速報）

（1）事故の型について

「転倒」によるものが最も多く（感染症以外のうち26%）、前年同期比で21%増。次いで「墜落・転落」が多く（感染症以外のうち17%）、前年同期比23%増。感染症以外では、この2つの型が災害増加の主な原因。

（2）被災者の年齢について

感染症以外による被災者の25%が60歳以上、「転倒」による被災者の39%及び「墜落・転落」による被災者の31%が60歳以上。

（3）業種別傾向

- ① 製造業のうち、食料品製造業が前年同期比20%増であり、うち「転倒」



によるものが前年同期比 25% 増。

- ② 建設業においては、「墜落・転落」によるものが前年同期比 32% 増。
- ③ 運輸交通業においては、「墜落・転落によるものが前年同期比 67% 増。
- ④ 商業においては、「転倒」によるものが前年同期比 51% 増。
- ⑤ 感染症による被災者のうち、73%が保健衛生業。

2. 事業者に実施いただきたい事項

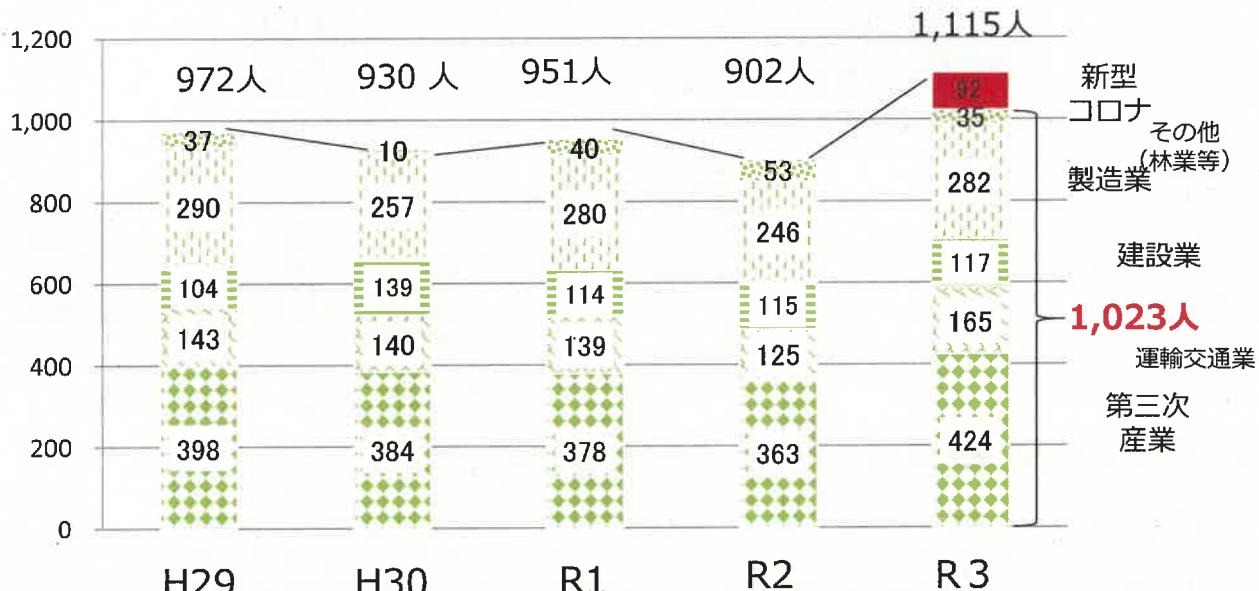
- (1) 転倒及び墜落・転落防止のため、職場内を点検して危険箇所を確認し、改善を行うとともに、転倒予防体操などを励行すること。
- (2) 感染症防止のための「取組の5つのポイント」に沿った感染症対策。
- (3) これから暑い季節になるので、こまめな休憩・水分補給などの熱中症予防対策、単独作業や屋外作業において熱中症予防の観点からマスクを外した方が良い場合はマスクを外すなどの熱中症予防対策。

労働災害防止のための対策を徹底しましょう！

令和3年労働災害発生状況

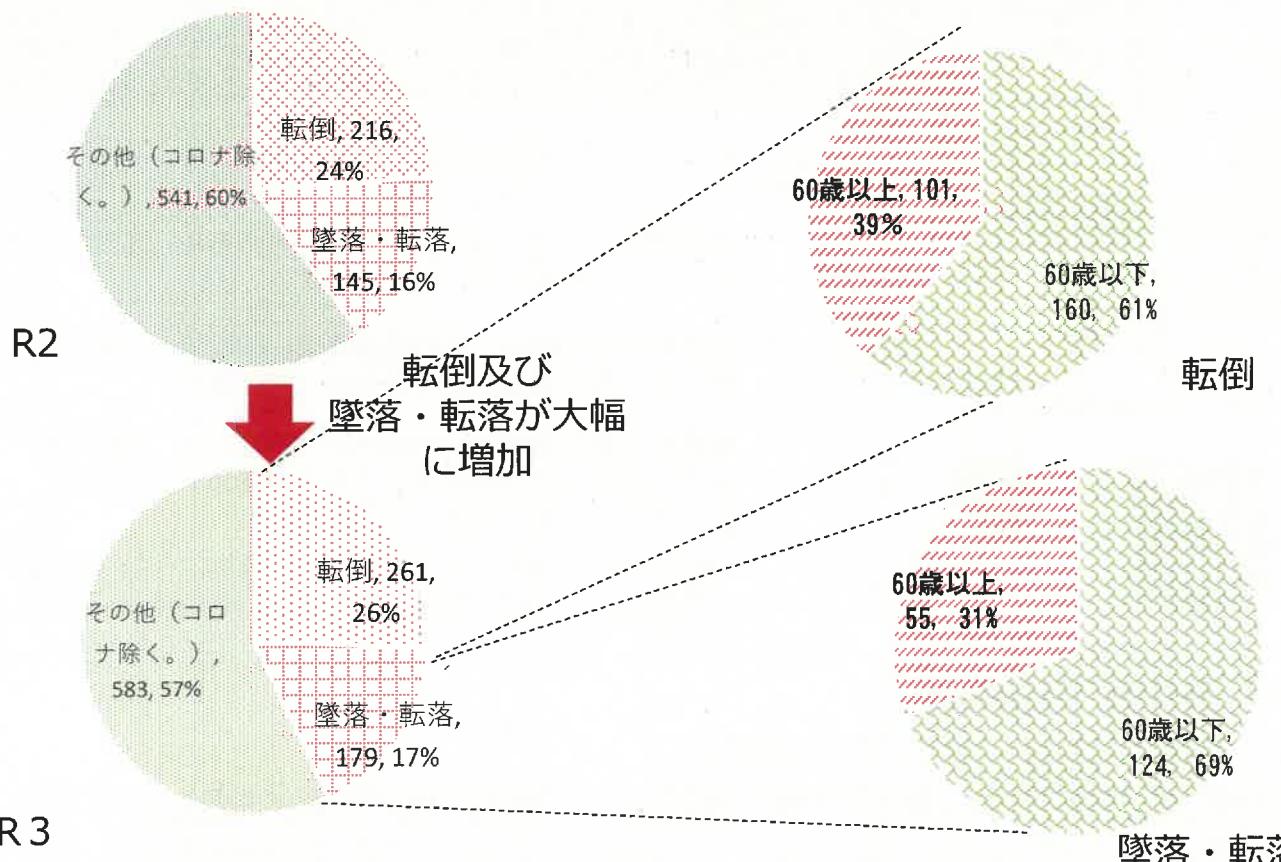
休業4日以上の死傷災害（5月末速報）

新型コロナを除いても、過去5年で最多！ 主要業種全てで増加！



※ 令和3年1月1日から5月31日までに発生した労働災害について、令和3年6月7日までに報告されたものを集計したもの。

※ 令和3年の災害のうち、新型コロナに係るものは産業計で集計し、その他の業種は新型コロナ以外での集計。



事故の型別発生状況（5月末速報）

転倒、墜落・転落の年齢別集計（令和3年）

1

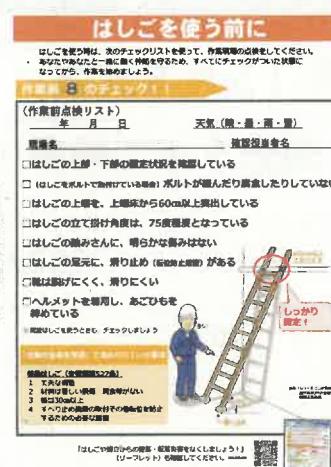
事業者に実施いただきたい事項

(1) 転倒及び墜落・転落の防止

- 職場内の危険箇所の点検と改善（チェックリストの活用を！）
- 転倒予防体操の励行

あなたの職場は大丈夫？
転倒の危険をチェックしてみましょう！

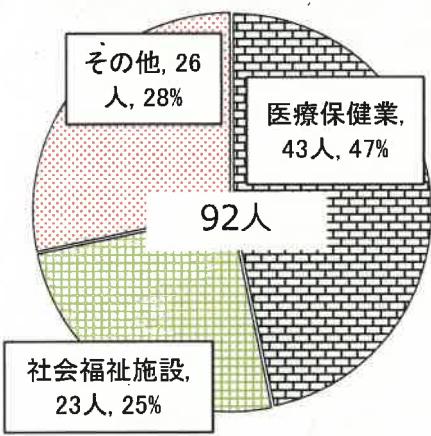
チェック項目	
1 通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2 床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3 通路や階段を安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4 靴は、すくへにくくちょうど良いサイズのものを選んでいますか	<input type="checkbox"/>
5 転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
6 段差のある箇所や滑りやすい場所などに、注意を促す標識をつけていますか	<input type="checkbox"/>
7 ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
8 ストレッチや転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>
9 転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>



転倒予防体操（Youtube）

(2) 職場における新型コロナウィルス感染症対策

職場における感染症防止のため、「取組の5つのポイント」に沿った取組を！



新型コロナ・業種別内訳（R3）



実施でき
ていれば

職場における新型コロナウイルス感染症対策実施のための取組の5つのポイント

- テレワーク・時差出勤等を推進しています。
- 体調がすぐれない人が気兼ねなく休めるルールを定め、実行できる雰囲気を作っています。
- 職員間の距離確保、定期的な換気、仕切り、マスク徹底など、密にならない工夫を行っています。
- 休憩所、更衣室などの“場の切り替わり”や、飲食の場など「感染リスクが高まる『5つの場面』」での対策・呼びかけを行っています。
- 手洗いや手指消毒、咳工チケット、複数人が触る箇所の消毒など、感染防止のための基本的な対策を行っています。



(3) 热中症予防対策

○こまめな休憩・水分補給は基本。

○特に建設業では、単独作業や屋外作業で熱中症予防の観点からマスクを外した方が良い場合はマスクを外すよう、事業場内でルール化を。



STOP ! 熱中症

令和3年5月～9月

クールワークキャンペーン

— 热中症予防対策の徹底を図ろう —

職場における熱中症により、毎年約20人が亡くなり、約1,000人が4日以上仕事を休んでいます。夏季を中心に「STOP ! 热中症 クールワークキャンペーン」を展開し、職場での熱中症予防に取り組みましょう！

事業場では、期間ごとの実施事項に重点的に取り組んでください。

- 実施期間：令和3年5月1日から9月30日まで（準備期間4月、重点取組期間7月）



確実に実施できているかを確認し、□にチェックを入れましょう！

準備期間（4月1日～4月30日）

<input type="checkbox"/> WBGT値の把握の準備	JIS規格「JIS B 7922」に適合したWBGT指数計を準備しましょう。			
<input type="checkbox"/> 作業計画の策定など	WBGT値に応じて、作業の中止、休憩時間の確保などができるよう余裕を持った作業計画をたてましょう。			
<input type="checkbox"/> 設備対策・休憩場所の確保の検討	簡易な屋根の設置、通風または冷房設備やミストシャワーなどの設置により、WBGT値を下げる方法を検討しましょう。また、作業場所の近くに冷房を備えた休憩場所や日陰などの涼しい休憩場所を確保しましょう。			
<input type="checkbox"/> 服装などの検討	通気性の良い作業着を準備しておきましょう。身体を冷却する機能をもつ服の着用も検討しましょう。			
<input type="checkbox"/> 教育研修の実施	熱中症の防止対策について、教育を行いましょう。	労働衛生管理体制の確立	衛生管理者などを中心に、事業場としての管理体制を整え、必要なら熱中症予防管理者の選任も行いましょう。	
<input type="checkbox"/> 緊急時の措置の確認	体調不良時に搬送する病院や緊急時の対応について確認を行い、周知しましょう。			

【主唱】厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会、一般社団法人全国警備業協会 【協賛】公益社団法人日本保安用品協会、一般社団法人日本電気計測器工業会 【後援】関係省庁（予定）



厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

(R 3.3)

キャンペーン期間（5月1日～9月30日）

STEP
1

□WBGT値の把握

JIS 規格に適合したWBGT指数計でWBGT値を測りましょう。



WBGT指数計の例

STEP
2

準備期間中に検討した事項を確実に実施するとともに、測定したWBGT値に応じて次の対策を取りましょう。

<input type="checkbox"/> WBGT値を下げるための設備の設置	準備期間に検討した設備、休憩場所を設置しましょう。 休憩場所には氷、冷たいおしぼり、シャワー等や飲料水、塩飴などを設置しましょう。	
<input type="checkbox"/> 休憩場所の整備	準備期間に検討した通気性の良い服装なども着用しましょう。	
<input type="checkbox"/> 通気性の良い服装など		
<input type="checkbox"/> 作業時間の短縮	WBGT値が高いときは、 単独作業を控え 、WBGT値に応じて 作業の中止、こまめに休憩をとる などの工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/> 熱への順化	暑さに慣れるまでの間は 十分に休憩を取り 、 1週間程度かけて徐々に身体を慣らし ましょう。 特に、 入職直後や夏季休暇明け の方は注意が必要です！	
<input type="checkbox"/> 水分・塩分の摂取	のどが渇いていなくても 定期的に水分・塩分 を取りましょう。	
<input type="checkbox"/> プレクーリング	休憩時間にも体温を下げる工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/> 健康診断結果に基づく措置	①糖尿病、②高血圧症、③心疾患、④腎不全、⑤精神・神経関係の疾患、⑥広範囲の皮膚疾患、⑦感冒、⑧下痢 などがあると熱中症にかかりやすくなります。 医師の意見をきいて人員配置を行いましょう。	
<input type="checkbox"/> 日常の健康管理など	前日のお酒の飲みすぎはないか、寝不足ではないか、当日は朝食をきちんととったか、管理者は確認しましょう。熱中症の具体的な症状について説明し、早く気付くことができるようになります。	
<input type="checkbox"/> 労働者の健康状態の確認	作業中は管理者はもちろん、作業員同士お互いの健康状態をよく確認しましょう。	

STEP
3

熱中症予防管理者等は、WBGT値を確認し、巡視などにより、次の事項を確認しましょう。



- WBGT値の低減対策は実施されているか
- 各労働者が暑さに慣れているか
- 各労働者は水分や塩分をきちんと取っているか
- 各労働者の体調は問題ないか
- 作業の中止や中断をさせなくてよいか

□異常時の措置

- ～少しでも異変を感じたら～
- ・**いったん作業を離れる**
- ・**病院へ運ぶ、または救急車を呼ぶ**
- ・**病院へ運ぶまでは一人きりにしない**

重点取組期間（7月1日～7月31日）



- 実施した対策の効果を再確認し、必要に応じ追加対策を行いましょう。
- 特に梅雨明け直後は、WBGT値に応じて、作業の中止、短縮、休憩時間の確保を徹底しましょう。
- 水分、塩分を積極的に取りましょう。
- 各自が、睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、当日の朝食はきちんと取りましょう。
- 期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的に教育を行いましょう。
- 少しでも異常を認めたときは、ためらうことなく、病院に搬送しましょう。



◆ 職場における熱中症による死傷災害の発生状況 ◆ (令和2年 広島労働局)

1 職場における熱中症による死傷者数の推移（平成22年～令和2年）

平成22年～令和2年の職場における熱中症による死者数及び休業4日以上の業務上疾病者の数（以下合わせて「死傷者数」という。）をみると最少は3人、最多は32人となっており、令和2年は24人となっている。

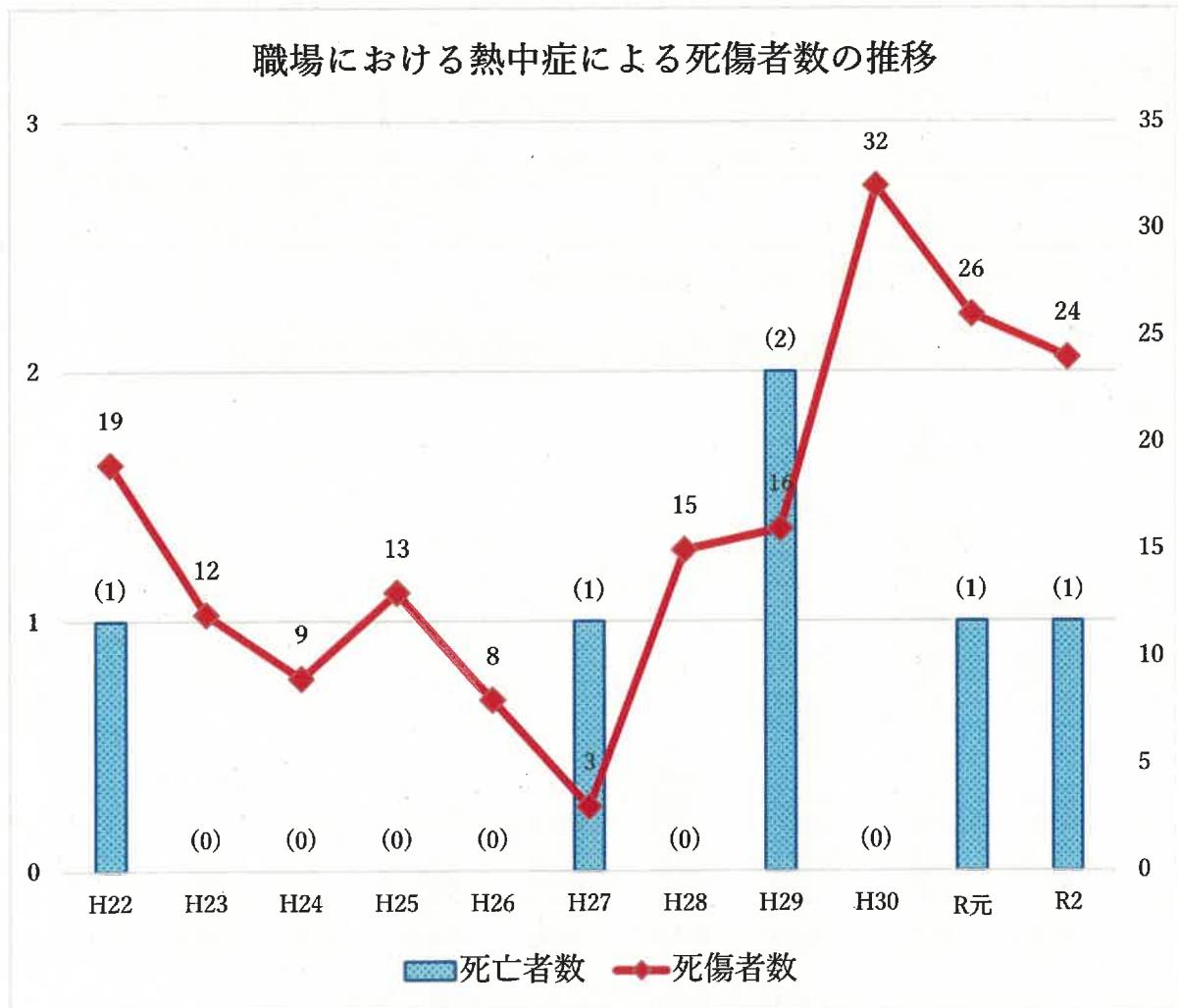
令和2年の死傷者数は、対前年同期で2人、7.7%の減少となっているが、ここ数年は猛暑が続き高止まりの傾向となっている。

死亡災害は、2年連続で1件発生している。

▶ 職場における熱中症による死傷者数の推移（人）

H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
19 (1)	12 (0)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)

※ () 内の数値は死者数であり、死傷者数の内数。



2 業種別発生状況（平成22年～令和2年）

平成22年～令和2年の業種別の熱中症による死傷者数をみると、製造業が最も多く、次いで建設業で多く発生している。これらの2業種で全体の5割以上を占めているが、近年は警備業においても増加傾向が認められる。

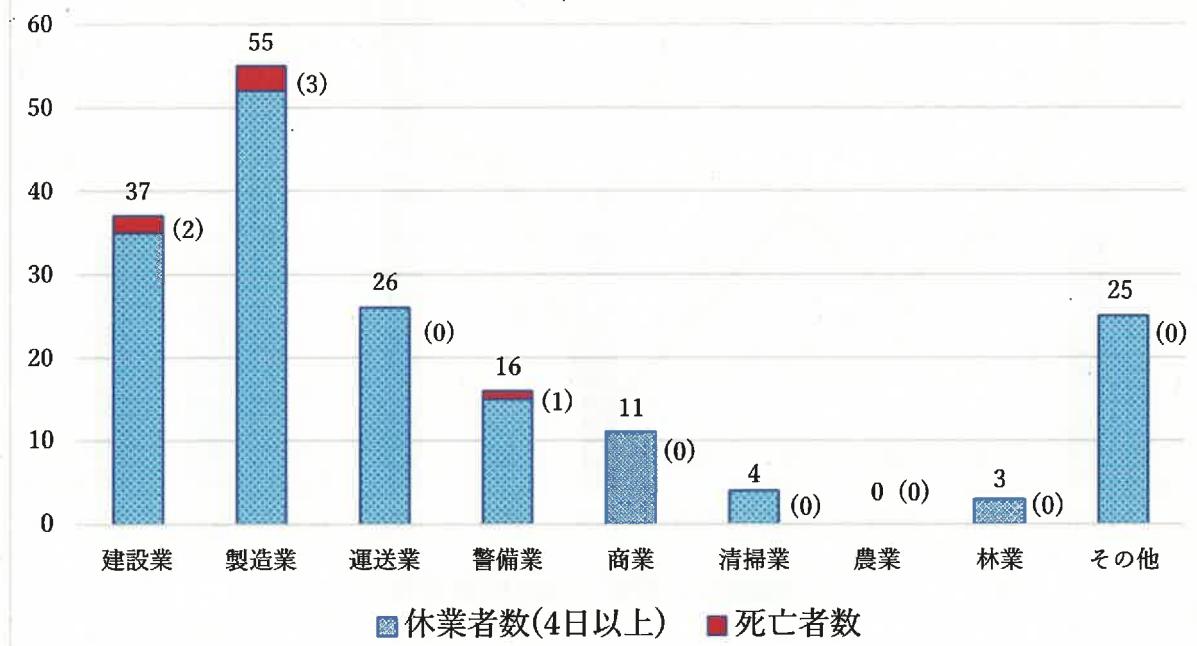
令和2年は、製造業が最多で8人、運送業が4人、建設業、警備業がそれぞれ3人となっているが、死亡災害は製造業で発生したものである。

➤ 热中症による死傷者数の業種別の状況（人）

業種	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	合計
建設業	4 (0)	3 (0)	3 (0)	5 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (2)	4 (0)	3 (0)	3 (0)	37 (2)
製造業	5 (1)	4 (0)	4 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	5 (0)	7 (0)	7 (0)	9 (1)	8 (1)	55 (3)
運送業	3 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	8 (0)	1 (0)	4 (0)	26 (0)
警備業	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	5 (0)	3 (0)	16 (1)
商業	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	11 (0)
清掃業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	4 (0)
農業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
林業	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)
その他	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	7 (0)	4 (0)	4 (0)	25 (0)
合計	19 (1)	12 (0)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	177 (6)

※ ()内の数値は死者数であり、死傷者数の内数。

業種別の熱中症による死傷者数の発生状況



3 月・時間帯別発生状況（平成22年～令和2年）

(1) 月別発生状況

平成22年～令和2年の月別の熱中症による死傷者数をみると、全体の約8割以上が7月及び8月に発生している。

令和2年も同様に7月、8月で多く発生しているが、早いものでは5月に発生したものもある。

死亡災害の発生は7月、8月に集中している。

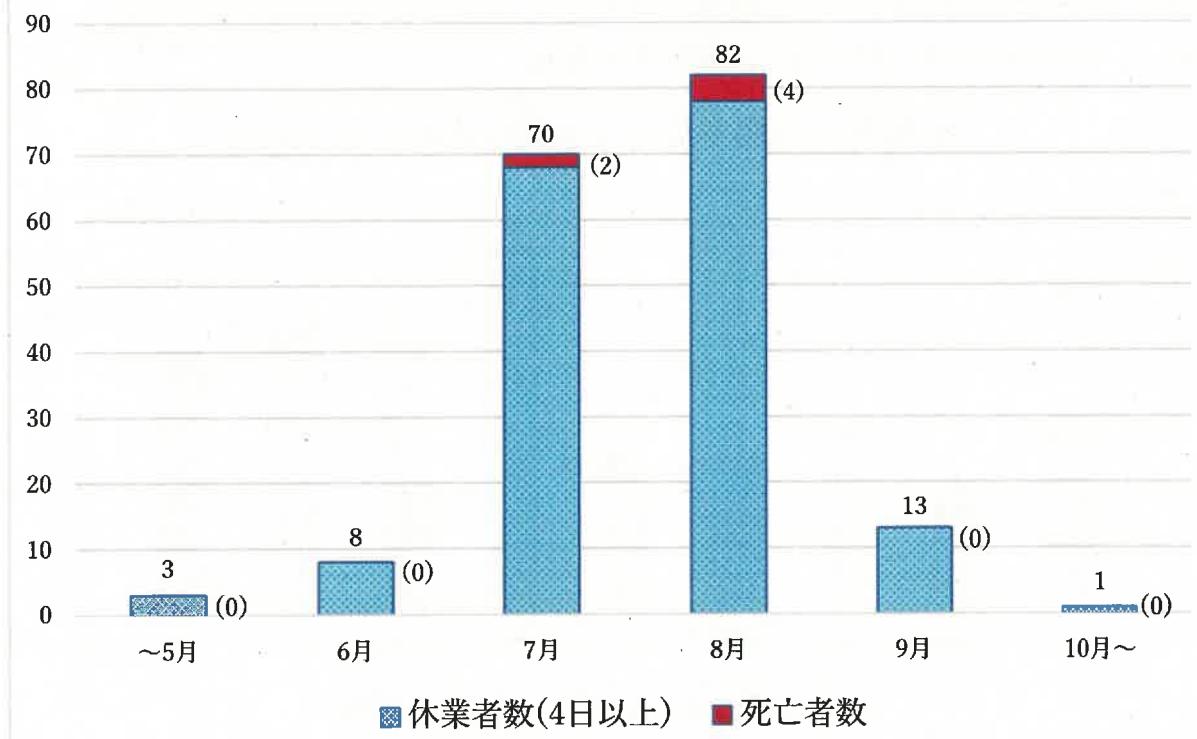
▶ 热中症による死傷者数の月別の状況

年 月別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	合計
～5月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (0)
6月	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	8 (0)
7月	4 (0)	4 (0)	4 (0)	6 (0)	5 (0)	1 (0)	10 (0)	7 (1)	18 (0)	9 (0)	2 (1)	70 (2)
8月	13 (1)	4 (0)	5 (0)	6 (0)	3 (0)	2 (1)	4 (0)	8 (1)	11 (0)	8 (0)	18 (1)	82 (4)
9月	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	7 (0)	1 (0)	13 (0)
10月～	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
合 計	19 (1)	12 (0)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	177 (6)

※ 「～5月」は1月から5月まで、「10月～」は10月から12月までの合計。

※ ()内の数値は死者数であり、死傷者数の内数。

月別の熱中症による死傷者数の発生状況



(2) 時間帯別発生状況（平成22年～令和2年）

平成22年～令和2年の時間帯別の熱中症による死傷者数をみると、14時台からの増加が顕著で17時台まで高止まりの状態で発生している。作業終了後の帰宅中又は帰宅後に体調が悪化し、夜間病院へ搬送されるケースも散見される。

令和2年も、13～17時台（午後）で多く発生している。

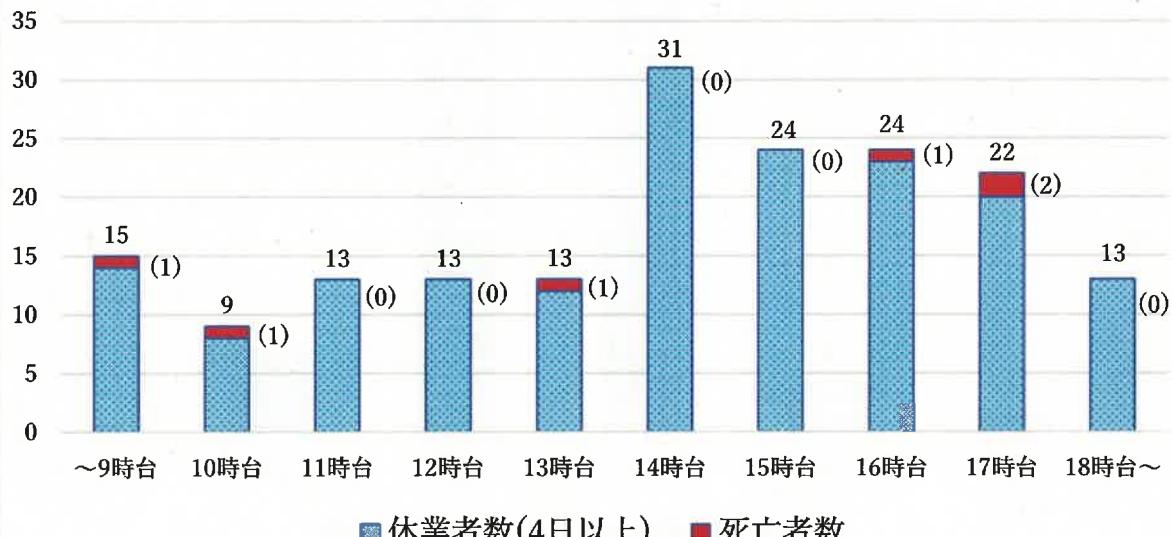
▶ 热中症による死傷者数の時間帯別の状況

年 時間帯別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	合 計
~9時台	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (1)	15 (1)
10時台	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	9 (1)
11時台	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (1)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	13 (0)
12時台	2 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	2 (0)	0 (1)	3 (0)	1 (0)	1 (1)	13 (0)
13時台	1 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	3 (0)	2 (0)	13 (1)
14時台	1 (0)	1 (0)	2 (0)	5 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	7 (0)	5 (0)	4 (0)	31 (0)
15時台	2 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	4 (0)	24 (0)
16時台	3 (1)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	4 (0)	24 (1)
17時台	3 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	4 (2)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	22 (2)
18時台～	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	13 (0)
合 計	19 (1)	12 (0)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	177 (6)

※ 「～9時台」は0時から9時台までの合計。

※ ()内の数値は死者数であり、死傷者数の内数。

時間帯別の熱中症による死傷者数の発生状況



4 経験年数別発生状況（平成22年～令和2年）

平成22年～令和2年の経験年数別の死傷者数をみると、1年未満が最多であり、次いで1年以上5年未満が多い。経験年数が5年未満までの死傷者が全体の5割以上となっており、熱中症予防の教育・研修の実施が重要である。

令和2年は、1年以上5年未満と10年以上20年未満が同数で最多となっている。

➤ 热中症による死傷者数の経験年数別の状況（人）

年 時間帯別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	合 計
1年未満	4 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (1)	4 (0)	5 (1)	12 (0)	7 (0)	3 (0)	47 (2)
1年以上 5年未満	5 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	5 (1)	10 (0)	7 (0)	7 (0)	46 (1)
5年以上 10年未満	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (0)	6 (0)	26 (0)
10年以上 20年未満	2 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	5 (0)	5 (0)	4 (0)	3 (0)	7 (1)	32 (1)
20年以上 30年未満	3 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	14 (1)
30年以上	3 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	12 (1)
合 計	19 (1)	12 (0)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	177 (6)

※ () 内の数値は死者数であり、死傷者数の内数。

経験年数別の熱中症による死傷者数の発生状況



5 年齢別発生状況（平成22年～令和2年）

平成22年～令和2年の年齢別の熱中症による死傷者数をみると、すべての年代において熱中症が発生しているが、最多は40代、次いで50代の発生が多い。また、60代以上の死傷者数も全体の25%以上を占めていることから、高年齢労働者への配慮が必要である。

令和2年もほとんどの年代で熱中症が発生し、60代で死亡災害が発生している。

➤ 热中症による死傷者数の年齢別の状況（人）

年 年代別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	合 計
10代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
20代	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (0)	2 (1)	8 (0)	6 (0)	4 (0)	29 (1)
30代	1 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	19 (0)
40代	5 (1)	4 (0)	0 (0)	5 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	9 (0)	5 (0)	7 (0)	4 (0)	44 (1)
50代	4 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	3 (0)	2 (1)	8 (0)	6 (0)	7 (0)	39 (2)
60代	6 (0)	4 (0)	0 (0)	4 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	5 (0)	3 (0)	4 (1)	31 (1)
70代以上	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (1)	2 (0)	14 (1)
合 計	19 (1)	12 (0)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	177 (6)

※ ()内の数値は死者数であり、死傷者数の内数。

年齢別の熱中症による死傷者数の発生状況

